



会長会見

変化と挑戦を力に、医療の未来を共に創る

2026年2月19日

日本製薬工業協会 会長 宮柱 明日香

Co-creation 

1 会長就任以降の振り返り

2 政策実現に向けた製薬協の取り組みと今後の計画

3 産業基盤強化に向けた人材育成

4 日本の持続的成長を支える産業へ

1 会長就任以降の振り返り

2 政策実現に向けた製薬協の取り組みと今後の計画

3 産業基盤強化に向けた人材育成

4 日本の持続的成長を支える産業へ

価値実現に求められるCo-creation（共創）

未来の「医療のあるべき姿」を創り出すために、産業内外との連携を行い価値を共創していく



対話

医療・医薬品をとりまく現状の理解

相互理解

国民を含む各ステークホルダーの「できること」を共有

共通課題の解決

課題解決に向けたステークホルダー横断でのアクションの推進

就任以降の共創機会：対話を通じた課題の把握・議論そして追及

就任後、未来の「医療のあるべき姿」を創り出すために、多くの方と対話・共創を深めた

共創機会

約**20**件/9カ月



X 発信数

約**180**件/9カ月



面談人数(延べ)

100人/9カ月



6月：官民協議会

創薬エコシステム構築へ 官民協議



6月：創薬エコシステムサミット

創薬力向上へ 政府会議登壇



7月～：中医協

薬価制度改革へ 業界陳述



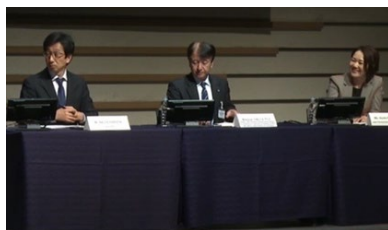
9月：くすりビジョナリー会議

共通課題の解決へ 患者・医療関係者と
共同宣言



9月：学生新聞

医薬品産業理解へ 学生対談



10月：日経・FT感染症会議

持続可能な感染症対策
実現に向け議論



10月：BioJapan

日本の医薬品アクセス改善へ
産官学意見交換



1月～：日本成長戦略会議

経済政策推進へ 政府主導
ワーキンググループ



1月：AMED/製薬協記者会見

創薬人材協力でAMEDと製薬協が
協定締結

就任以降の環境変化

責任ある積極財政

日米関税交渉

女性の健康政策推進

TICAD9

高額療養費制度

骨太の方針2025閣議決定

2025年5月
製薬協 会長就任



2025年5月

トランプ大統領によるMFN（最恵国待遇）発令

2025年6月

創薬力向上のための官民協議会

2025年7月

参議院議員選挙

2025年10月

高市内閣発足

2025年11月

革新的医薬品・医療機器・
再生医療等製品創出のための官民対話

2025年12月

26年度予算編成

日本成長戦略会議設置

2026年1月～

日本成長戦略会議 ワーキンググループ
衆議院解散

2026年2月

衆議院議員総選挙

OTC類似薬の
負担見直し

ASEAN関連首脳会議

物価高対策

医薬品産業を取り巻く環境は複雑性を増しているが、これを新たな機会と捉え日本国民の健康に貢献する

環境の変化が、より現実的且つ危機感のある議論を後押しした
製薬協の目指す方向性は現政権の政策とも一致している



注視すべき 国内外の環境変化

- 米国政策の影響（MFN、関税）
- 経済安全保障リスク
（医薬品国内自給率25%）
- 地政学的リスク
- 物価上昇
- 人口減少

機会とチャレンジ



- イノベーションの適切な評価
- 国内創薬力強化
- サプライチェーン強靱化
- 国内生産能力強化
- 医療DX・データ利活用
- 日本成長戦略会議（創薬・バイオの2分野での議論）
- 国民会議（社会保障の給付と負担の議論）

日本の医薬品産業を取り巻く課題

研究開発（創薬）

創薬力の低下傾向

生産・製造

経済安全保障リスク

承認・償還（制度）

予見性の低い市場

産業ビジョン2035の実現に向けて10の主要テーマを推進

製薬協の取組

実現したいこと

創薬

製薬業界からアカデミア・AMED
へのノウハウの提供

官民対話を通じた投資・
シーズ誘致の着実な実行

日本特有の
創薬エコシステムの強化

生産

バイオ医薬品、新規モダリティの
生産体制整備の検討

生産における
バイオ人材の育成

主にバイオ医薬品を
対象とした生産機能誘致

制度

製薬内外ステークホルダーとの
財源に関する共通課題解決

薬価に反映すべき
革新的新薬の価値の議論開始

予見性改善と医薬品の価値
に応じた薬価制度

国際的知財保護・
知財施策の推進

審査報告書の充実
ASEAN諸国とのリライアンスパス

グローバルの規制調和

医療DX

主幹組織立上げとステーク
ホルダー横断の議論の実施

医療DXの全体構想・
実行計画の策定

新しい財源再配分モデルの
導入方針の策定

1 会長就任以降の振り返り

2 政策実現に向けた製薬協の取り組みと今後の計画

3 産業基盤強化に向けた人材育成

4 日本の持続的成長を支える産業へ

2025-26年度 アクションプラン進捗

ステークホルダーとの対話を通じた役割の明確化を行い、価値共創に向けた取組を推進

実現したいこと

主な成果（進捗）

今後のアクション

創薬

日本特有の
創薬エコシステムの強化

- AND-E協定締結
- ロードマップ・製薬協独自の評価指標の策定

- AND-E定期進捗確認
- 成長戦略会議等での創薬力強化提言

生産

主にバイオ医薬品を
対象とした生産機能誘致

- 厚労省バイオ人材支援育成事業への参画
- サプライチェーン重要課題抽出

- 成長戦略会議における国内製造基盤強化策提案

制度

予見性改善と医薬品の価値
に応じた薬価制度

- 市場拡大再算定共連れ廃止
- 費用対効果評価の客観的検証

- 中間年改定の廃止に向けた検討
- 新たな薬価算定制度提案
- 費用対効果評価の客観的検証
- 望ましい薬剤費財源の整理

グローバルの規制調和

- 医薬品データ保護法制化を内閣府知的財産推進計画へ掲題
- 審査報告書刷新案検討

- 魅力的な日本市場の構築に向けた国内制度整備、グローバルスタンダードとの整合
- AI等の最新技術に対応する知的財産保護制度の検討・提案・構築

医療DX

新しい財源再配分モデルの
導入方針の策定

- 製薬協内医療DX主幹組織創設準備
- DX価値定量化実行プラン策定

- 医療DX価値定量化に向けた提言
- 製薬業界DX価値定量化
- 国民向けアドボカシー強化

産業界の創薬ノウハウを有する製薬協の研究人材がAMEDに入り 支援研究の実用化強化に協力する「AND-E」に関する協定を締結

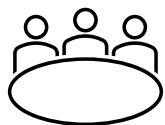
両者の対応チームが、定期的に実施状況を確認・協議する体制を構築



豊富な創薬経験を持つ企業研究者が出向

- ・ 製薬企業における創薬プロジェクトの立案・採択経験
- ・ 創薬プロジェクトのリード経験
- ・ 高度な創薬知識

課題解決型出向

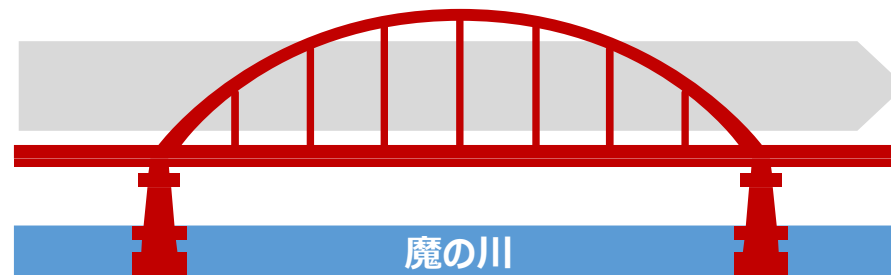


AND-E (AMED IND ENGINE)

- ・ 事業化・社会実装の観点で創薬可能性評価
- ・ TPP¹を意識した仮想研究シナリオ設計
- ・ IND²到達を見据えた開発ロードマップ作成

▶ 企業の視点をもった創薬研究が
定常的にAMEDで行われる状態と
なることを期待

AMED支援課題
(基礎・萌芽的研究)



創薬展開

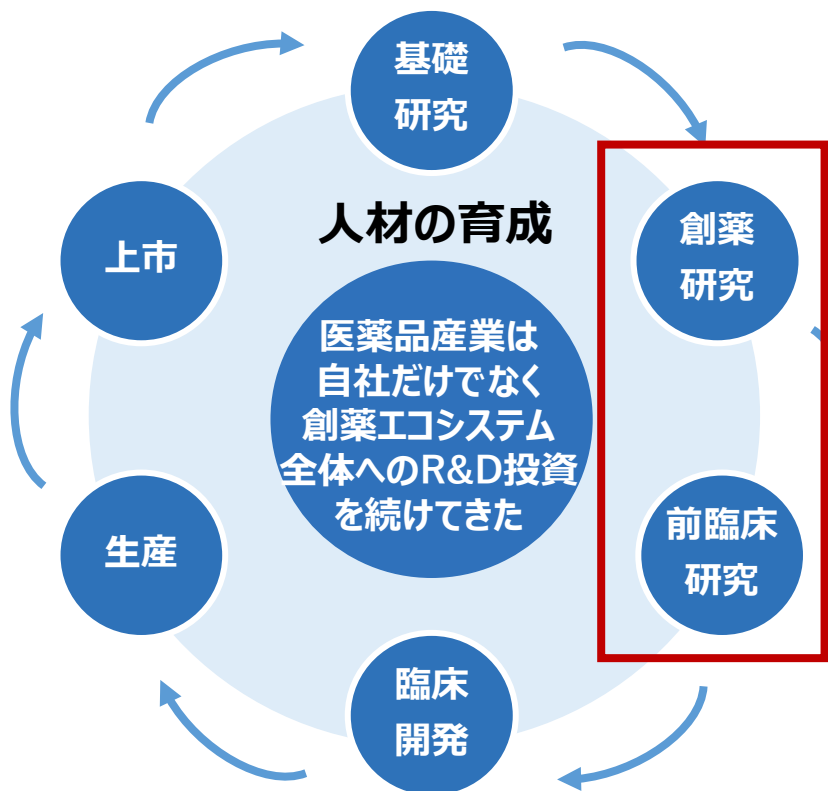
- ・ スタートアップ[°]設立
- ・ 製薬企業への導出
- ・ 共同研究への展開

注1：Target Product profile（目指すべき製品像を明確化した指針）

注2：IND: Investigational New Drug 臨床試験直前の新薬

エコシステムの起点となる創薬力強化のための我々の提案

橋渡し機能の強化、インフラ整備、産官学を横断した人材育成・流動化により、
世界トップレベルの日本発医薬品が誕生することで2.4兆円規模のGDP貢献¹が見込まれる



製薬協の提言

基礎研究や創薬シーズ実用化のための人材・機能が不足

▶ 産官学連携による包括的な実用化
加速機能の設置

ベンチャー企業の支援体制が不足

▶ 国内発創薬シーズに対するリスク
マネー供給の拡充

海外依存の進行による産業空洞化の
リスク

▶ 国内CDMO・CROの機能強化

2.4兆円
規模のGDP貢献

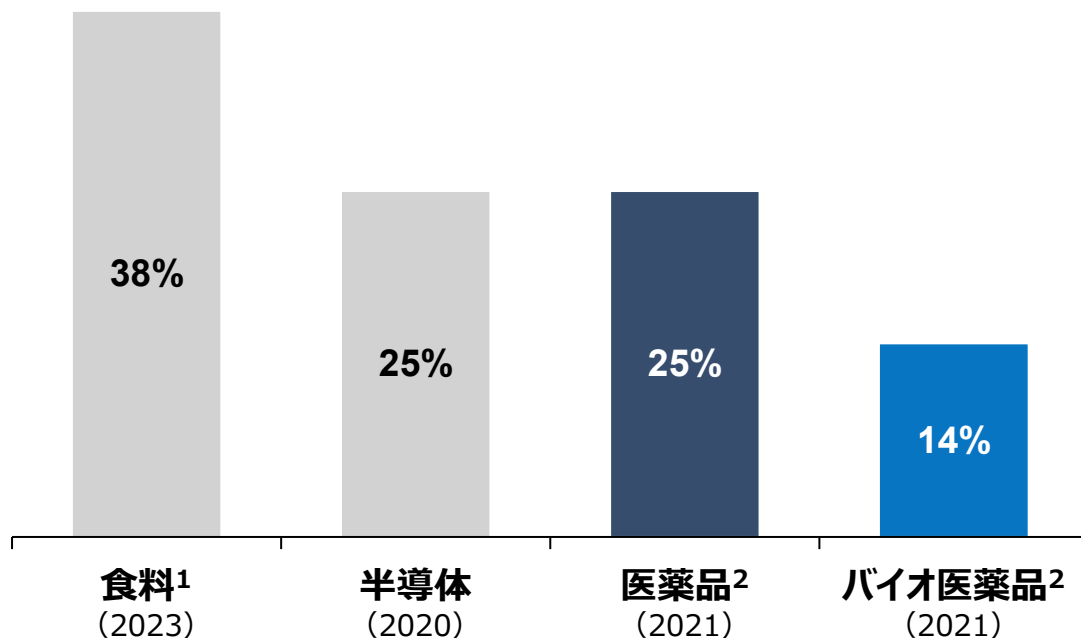


注1：国内からグローバル売上上位の製品が3製品上市された場合を想定

日本国内の医薬品製造の環境分析から見た問題点

医薬品は国民の健康を支えている重要物資にもかかわらず、医薬品国内自給率は低率
食料自給率よりも低く、大きなリスクを抱えている

日本国内主要産業間の自給率



各国のバイオ医薬品の国家戦略

公的資金投入額 (推定値)

位置づけ



～ 10兆円

(25年度国家予算に対する
累計投入金額の割合：～2%)



～ 4兆円

(25年度国家予算に対する
累計投入金額の割合：～5%)



～ 0.5兆円

(25年度国家予算に対する
累計投入金額の割合：～3%)



～ 0.9兆円

(25年度国家予算に対する
累計投入金額の割合：～1%)

'90年代以降、
革新的な医薬品の創出と、開発・
製造受託産業の育成を重要テーマ
として設定

'00年代以降、
バイオ医薬品の生産・輸出、特に
CDMO・バイオシミラー分野を重点
的に育成

'17年以降、
「バイオ版TSMC」(国策CDMO)
の創出を国家事業として推進

'21年以降、
創薬力強化・安全保障・ワクチン
生産体制強化を重要テーマとして
設定

医薬品製造における今後の取組と波及効果

健康安全保障の観点からのアクセス確保に向け、

①「国内外製造力の強靱化・均質化」、②「人材育成・交流」への官民投資を実施

製薬協の対応・働きかけ

①有事における医薬品の安定的確保と
地政学リスクへの対応

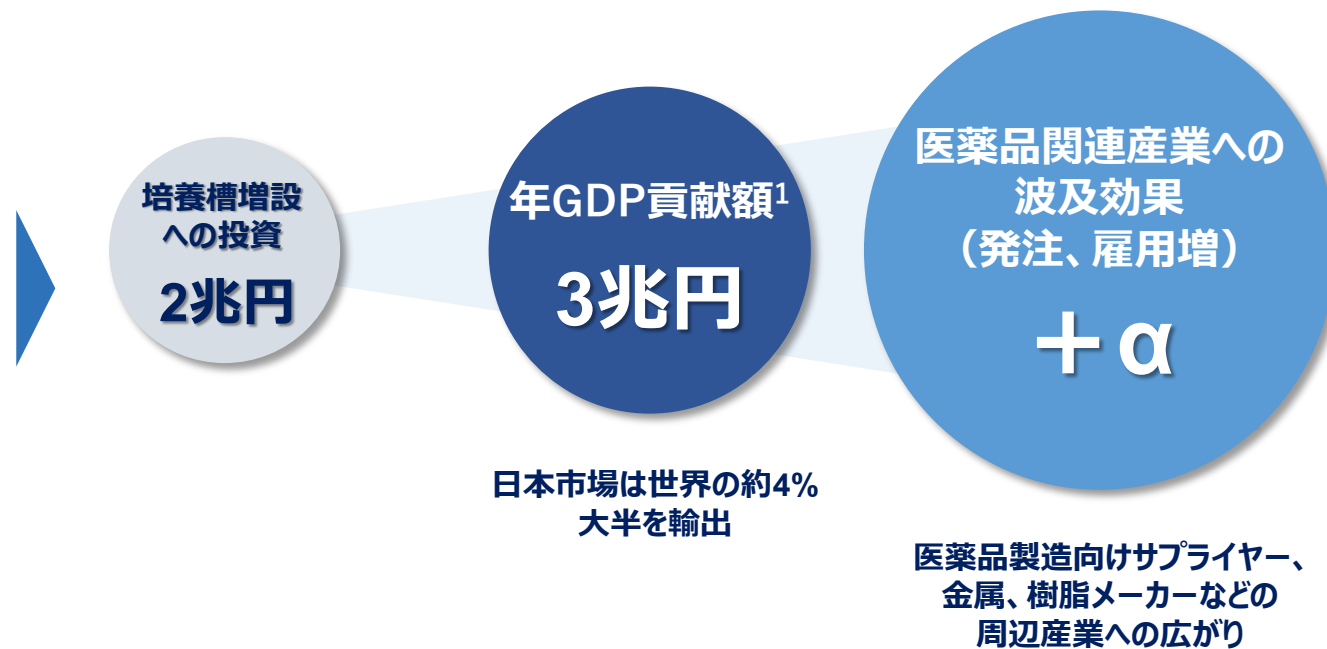
官民協働による重要供給確保医薬品等を支える
生産体制の強化

②国内生産基盤強靱化への取り組み

バイオ医薬品の生産拠点整備

- 国内製造支援及び国内外のCDMO・CMO等の強化・誘致
- バイオ製造人材の継続的な育成と流動性向上

バイオ製造へ投資した場合の経済波及効果の概算



26年度薬価制度改革の主な内容と今後取り組むべき課題

予見性改善につながる前進だが、依然として取り組むべき課題は残されている

主な改定内容



市場拡大再算定（特例含む）の共連れ廃止



費用対効果評価制度の客観的検証の実施



市場性加算及び小児加算の併加算

短期的な課題への対応



費用対効果評価制度

客観的検証を踏まえた合理的な制度への見直し



環境に応じた機動的な薬価制度への対応

- インフレ：改定時における物価上昇・人件費高騰への対応
- 最恵国待遇価格（MFN）：ドラッグ・ロスを悪化させないための適正な革新性の評価

2027年度以降、将来を見据えた対応

薬価算定

原価計算方式をカバーする形で革新性が適切に評価される仕組みを導入

薬価改定

市場実勢価改定方式を廃止しシンプルに薬価を維持

持続可能性 特例価格調整

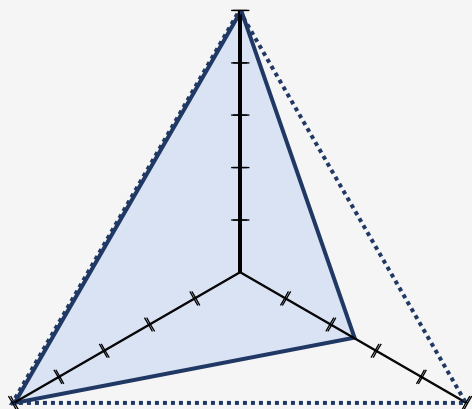
単純な売り上げだけを基準にする合理性に乏しい再算定の廃止

医療制度の持続性

フリーアクセス・高品質な医療・低負担は本来成り立たない

Access

国民皆保険の維持



Quality

高度な医療・薬剤の提供

Cost

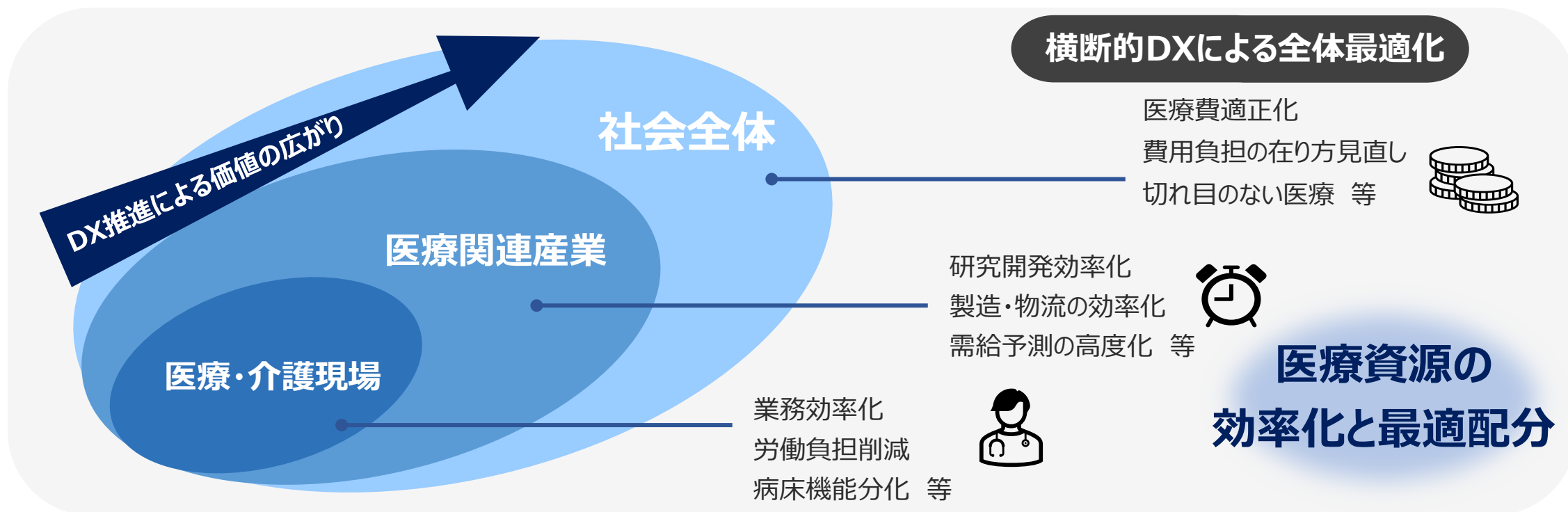
医療費抑制・負担軽減

疑似的均衡の背景

- 診療報酬の抑制（主には薬価の引き下げ）
- 医療従事者の長時間労働
- 病院経営の努力と犠牲（赤字覚悟の診療）

社会保障制度の持続可能性を確保する横断的なDXが必要

健康・医療分野全体でDXを推進し、医療資源の効率化と最適配分を図る



DX推進における問題

- ・ 国が推進している医療DXは一部領域にとどまっており、社会全体を巻き込む取り組みには至っていない
- ・ 明確な達成指標やアウトカム指標が不足しており、DX推進による価値や便益が国民・患者さんに適切に伝わっていない

医療DXの価値を共通理解するための価値定量化と対話の実践

製薬協に医療DX推進主幹組織を新設し、各ステークホルダーと医療・健康全体のDXの価値定量化に基づく議論と対話を通じて、医療DXの機運醸成と社会実装を加速

製薬協医療DX主幹組織の取り組み（案）

医療DXが実装された未来

1. 健康・医療分野全体のDX価値定量化

- 政策提言・政府への働きかけ
- 各ステークホルダーと連携する枠組の構築
- 定量化計画の策定・実施

2. 医療DXの機運醸成・社会実装の加速

- 医療DX関連のアドボカシー活動
（イベント実施、コンテンツ発信など）
- エビデンスに基づく政策提言



社会保障制度の安定的な運営

- 最適な医療の継続的な提供
- ライフステージに応じた切れ目ない医療
- 有事にも耐えうる強靱な医療システム

世界に先行した日本型の医療モデルの発信

- データ駆動型医療・創薬の進展
- 日本発医療技術のグローバル展開
- 国内外から信頼される投資環境

1 会長就任以降の振り返り

2 政策実現に向けた製薬協の取り組みと今後の計画

3 産業基盤強化に向けた人材育成

4 日本の持続的成長を支える産業へ

イノベーション創出の鍵は「人」 — 国の政策が示す科学人材育成の重要性

- 国は、初等中等教育から高等教育に至るまで、学校教育段階に応じた科学技術人材育成を体系的に推進することを基本的な方針としている — 内閣府 科学技術・イノベーション基本計画
- 医学・薬学の変化に迅速に対応した人材育成の観点も含め、教育内容の見直しなどの方向性も検討
— 創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議 中間とりまとめ

「骨太の方針2025」

- 科学技術人材の育成を強化する
- 先端技術に対応した人材育成の高度化・国際化を始め、大学・高専・専門学校の機能を強化すると明記

出典：内閣府『経済財政運営と改革の基本方針2025（骨太方針2025）』（2025年6月13日閣議決定）

統合イノベーション戦略2025

- 「先端科学技術の戦略的な推進」「**知の基盤（研究力）と人材育成の強化**」「イノベーション・エコシステムの形成」の三本柱を加速

出典：内閣府『統合イノベーション戦略2025』（2025年6月6日閣議決定）

文部科学省「今後の科学技術 人材政策の方向性」 （中間まとめ）

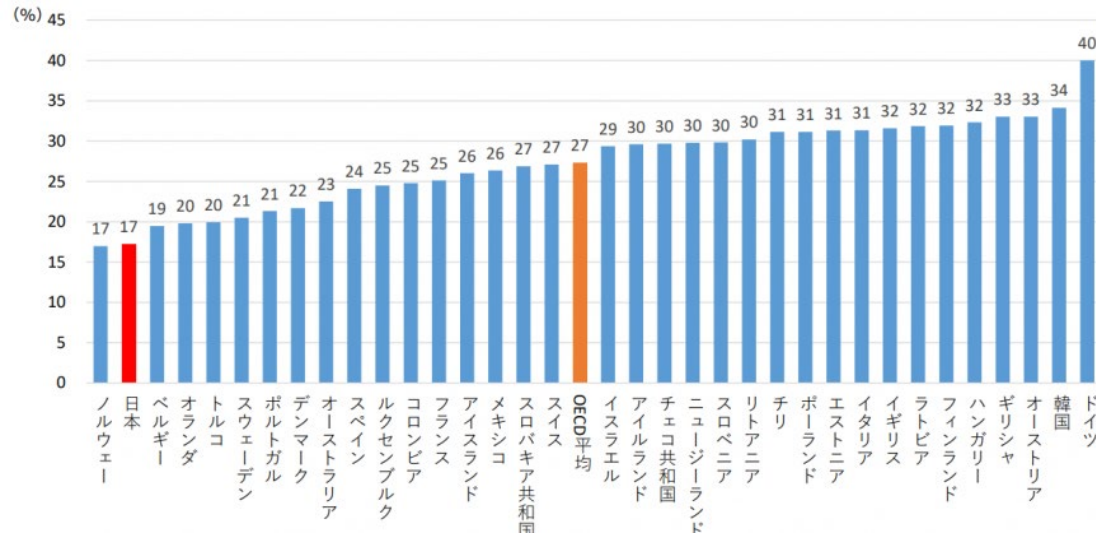
- 科学技術人材政策は“横断的基盤政策”
- 科学技術コミュニケーションを“次世代育成”の柱に位置づけ、**小中学生の段階から好奇心を高めることができる機会の提供が重要**

出典：文部科学省『今後の科学技術人材政策の方向性（中間まとめ）』（2025年7月30日）

将来の研究・開発人材の供給基盤が細る中で、 若年層への早期アプローチが不可欠

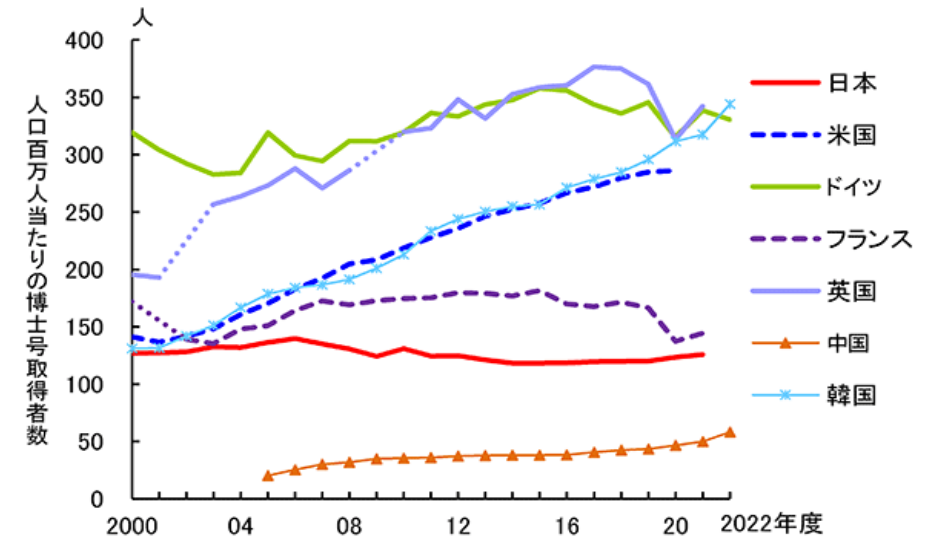
- **理工系人材**：日本では理工系分野への進学者割合がOECD諸国と比べて低い
- **博士号取得者**：医薬品産業は全産業で最も博士号取得者の割合が高い一方、日本の博士号取得者の数は主要国に比較し低水準で推移

日本の理工系分野への 入学者の割合は諸外国に比べて低い



出典：文部科学省『今後の科学技術人材政策の方向性（中間まとめ・概要）』p.4

日本における人口百万人あたりの博士号取得者数は 主要国と比べて低水準で推移



出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所、科学技術指標2024、調査資料-341、2024年8月

若年層に向けて産業の持続的成長を支える啓発活動実施

- 幅広いステークホルダーと共創し、若年者が科学・技術・産業に触れる機会を創出
- 研究・開発人材の育成に加え、産業への理解者を増やす取り組み

小学生

- 2025年春・秋 科学技術館「くすりの部屋ークスリウム」で実験ショーを実施

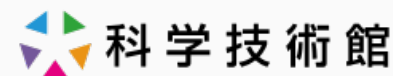
中学生

- 「総合的な学習の時間」副教材の作成
- 2025年度 宣伝会議賞中高生部門協賛
- Girls Meet STEM 参画 (2026年3月23日 科学技術館)
- 日本薬学会 高校生サイエンスフェスタ共催 (2026年3月28日)
- 「総合的な探求の時間」副教材 (制作中)

高校生

大学生

- キャリア学習動画の制作
- キャリアイベント登壇 (2026年2月17日 他)
- 大学への出張授業 (依頼に応じて、年間10件以上)





まだ見ぬ治療を、
未来のあたりまえに。

1 会長就任以降の振り返り

2 政策実現に向けた製薬協の取り組みと今後の計画

3 産業基盤強化に向けた人材育成

4 日本の持続的成長を支える産業へ

持続的なイノベーション創出を通じた国民の健康、 経済安全保障、日本の成長に貢献する産業への再生に向けて

創薬基盤の強化

基礎研究の実用化と
リスクマネー供給を
拡充する仕組みづくり

国内製造力の 強靱化

安全保障上重要な
医薬品・原材料を
国内で安定的に確保する
生産設備および
人材への投資

市場魅力度の向上

革新的医薬品が
適切に評価される
薬価制度と投資を
呼び込む市場形成

医療DXによる効率化 と価値の再配分

質の高い医療の
持続的提供と新たな
価値共創の実現

－製薬協産業ビジョン2035－ 「我が国、そして世界に届ける創薬イノベーション」

01 ▶ Innovation

イノベーションを継続的に創出し、健康寿命の延伸とともに我が国の経済成長に貢献する

02 ▶ Access

国民に革新的新薬を迅速に届け、健康安全保障に貢献する

03 ▶ Trust

倫理観と透明性を担保し、社会から信頼される産業となる

激変する環境下でも「Co-creation」と「変革」を通じて
ビジョン実現を推進



Co-creation 